



## 新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、良き新年をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。年頭に当たり、現在の日本の課題と思われる点を3点述べたいと思います。

第1は少子高齢化への対処です。日本の将来人口は2050年頃に1億人を割込み、更に減少し続けるという推計がございますが、このままでは国力が低下してしまいます。少子化対策は、国や女性だけが頑張っても難しく、育児には国・企業に加え、男性の協力が必要です。

高齢化への対処には、健康寿命を延ばすことが重要です。人間は働き、社会と関係を持っている間は老いないのです。企業での定年延長や、退職後もボランティアや趣味の友と接するなど、社会との関係を保つことが大事だと思います。国民が健康になれば、社会保障関係費の抑制、国の財政悪化防止にも大きく貢献するでしょう。

第2は資本主義への対処です。本来資本主義は、マックスウェーバーが言っているように「天職（ベロフ）として働く仕組み」であった筈です。日本でも、渋沢栄一が「論語と算盤」で述べたように、資本主義には倫理的色合いがありました。

しかし現在、「GAFA」と呼ばれる米国のグーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンの4社は、プラットフォームを築き上げ、データを独占すること

## 頌春



理事長 今井 敬

で、その時価総額が日本のGDPに迫るほど巨大な規模に成長しました。結果として世界の富が一極に集中し、格差社会が拡大しております。

格差の拡大は、各国における不満分子の拡大に結び付き、ポピュリズムが蔓延するようになりました。どんなに技術が発達しても、AIは人間の心・感情までは取り込めないでしょう。高い倫理観を有した人間が、科学技術の発展に向き合い、うまく折り合っていく、そんな社会の到来を期待したいと思います。

最後は、世界における日本の立ち位置です。日本は資源と食料の自給率が極めて低いのでグローバルイゼーションは必須ですが、世界の中で日本が如何に存在感を保つかです。

日本は、自衛隊だけでは大きな軍事・外交問題に対処出来ないことは明らかであり、米国の力が必要です。その米国は昨年、中国に対する関税措置を相次ぎ発動させた他、ペンス副大統領が中国政策を批判する演説を行いました。一方、隣国である中国は、2049年の建国100周年に向けて着々と大国路線を進めております。米中両国の争いは、経済分野に留まらず、あらゆる分野での覇権争いの体をなしており、今後長期化するでしょう。

日本は米中の中に立ち、難しい対応を迫られますが、中国は何と言っても社会主義の国であり、ルールの違う難しい国です。政治・外交では、両国の違いをしっかりと理解した上で付き合う「戦略的互恵

関係」を継続すべきです。一方で、民間では様々な分野で人的交流を深め、友好的に努めなければなりません。こうした日米中関係の上で、アジア諸国と連携を深めていくことが我々に求められています。

鉄鋼業界においては、米中貿易摩擦の動向や、米国の保護主義的政策に伴う世界経済への影響等、不透明さはあるものの、日本経済は雇用・所得環境の改善から回復基調を継続し、世界経済も全体として緩やかな成長を維持する、と見ているようです。業績も引き続き改善傾向にあります。

昨年11月、日本鉄鋼連盟が2030年以降も見据えた「長期温暖化対策ビジョン」を提言致しました。水素還元製鉄やCCS/CCU等の超革新技術開発に取り組むことでゼロカーボンの実現を目指す、という大変意欲的な内容です。安価水素の大量安定調達、CO<sub>2</sub>の安価輸送・貯留技術・貯留場所確保等が前提となりますが、日本にとっても重要な取り組みです。

先月ポーランドで開催されたCOP24では、パリ協定の運用ルールが採択されました。一部で先進国と途上国の対立があったようですが、採択に至ったのは、温室効果ガス削減の取り組みが、もはや人類

にとって避けて通れない道であると、世界で共通認識されたからでしょう。

高炉法において、還元剤として原料炭を使用せざるを得ないことは事実ですが、温室効果ガス削減に繋がる技術開発も併せて追求する必要があります。

さて、1968年9月に活動を開始したアイアン・クラブは昨年9月に創立50周年を迎えました。これもひとえに賛助会員各社ならびに会員の皆様のご支援とご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

当クラブは、現役とOBのオール鉄鋼人（メーカー・商社・船会社・物流・システム・設備保全・鋼材加工・鉄鋼原料等々）を会員として、自主的な運営と活動に努めてまいりました。

本年は、いよいよ51年目のスタート、新しい元号に変わる節目の年であり、次の50年に向けてさらなる飛躍と親しみのあるクラブを目指し、諸行事の更なる充実を図ってまいります。一層のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、皆様の益々のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以下、余白